

平成 17 年度 教育 研究 業績 書

氏 名 三 木 理 史

最終学歴	関西大学大学院文学研究科博士課程後期課程中退
取得学位	博士(文学)
所属学会	日本地理学会・人文地理学会・歴史地理学会・奈良地理学会・社会経済史学会・経営史学会・日本産業技術史学会・交通史研究会・鉄道史学会・日本植民地研究会
現在の専門分野	歴史地理学・交通地理学／都市交通史・植民地研究・写真史
研究課題	大阪市における都市交通史の研究／樺太における植民地史の研究／近代日本の地理写真史の研究
<p>【研究上の特記事項】</p> <p>平成17～19年度科学研究費萌芽研究「明治期陸地測量部における写真班の活動に関する研究」研究代表者。平成15～18年度科学研究基盤研究B「近代日本の民間地図と画像資料の地理学的活用に関する基礎的研究」(研究代表者：群馬大学教育学部助教授 関戸明子)研究分担者。平成15～17年度科学研究費基盤研究B「両大戦間期交通・運輸史に関する総合的研究－都市交通と物流－」(研究代表者：立教大学経済学部教授 老川慶喜)研究分担者。</p>	
<p>【教育上の特記事項】</p> <p>地理学科3年次ゼミ報告書『熊本巡検報告書－熊本県内各地の地域調査－』(三木ゼミ調査法・野外研究調査報告書第10号), 2006年1月。</p> <p>非常勤講師：関西大学文学部(歴史地理研究a・b)・佛教大学文学部(地域文化特講1H・2A)</p>	
<p>【社会的活動】</p> <p>国際日本文化研究センター共同研究員／愛知県史編さん委員会特別調査委員／ 門真市史執筆委員(2005年9月まで)／茨木市史執筆委員／人文地理学会地理学文献目録 編集副委員長／人文地理学会協議員／歴史地理学会評議員／交通史研究会委員 講演会講師(高知高校・香川県教育委員会地歴科研究会・大阪市阿倍野市民教養ルーム・天理市山の辺文化会議)</p>	
<p>【学内活動】 (学内職歴を含む)</p> <p>図書館委員(地理学科)／文学部学生指導委員(地理学科)／セクシュアルハラスメント 相談委員 </p>	

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
1				
2				
3				
4				
5				
(学術論文)				
1 The Origins of Commutation in Japan.	単著	2005年5月	The Association of Japanese Geographers GEOGRAPHICAL REVIEW OF JAPAN Vol. 78 No.5, 2005	明治から大正期にかけての通勤・通学の成立過程を、交通・労働・教育の3本柱を構成して論じ、「通い」の再生産構造の存在を指摘した。pp. 1-18
2 1930年代の樺太における石炭業	単著	2005年5月	アジア経済研究所『アジア経済』第46巻5号	戦時期にパルプ・製紙工業に加えて台頭した樺太石炭業を、帝国日本の中に位置づけた。2~18頁
4				
5				
(学会発表)				
1 「鉄道写真」の誕生 —風景発、戦争経由、鉄道行—	単独	2005年4月	人文地理学会第254回例会・「鉄道と地理の愉しみ」	人文地理学会の地理学振興例会の1つで、鉄道からの地理への接近をテーマにした企画例会での報告
2 関西における私鉄創業期の事情	単独	2005年5月	国際日本文化研究センター・共同研究：「関西」史と「関西」計画	国際日本文化研究センターでの共同研究の報告の1つとして、関西私鉄の成立事情を通して「私鉄」の本質を考察
3 府県写真帖の成立 —日露戦後期における治績報告書の地誌的意義をめぐって—	単独	2005年7月	第48回歴史地理学会大会・自由論題報告	明治末から大正期に全国の道府県が編纂した「府県写真帖」を地誌との関係から考察した
4 戦時期における「都市鉄道」—技術統制をめぐる戦中・終戦期—	単独	2005年10月	鉄道史学会共通論題報告「鉄道車両史を考える」	標記の共通論題の1つとして、戦中期の物資統制による輸送への影響を車両史という技術史的内容から考察した
5 明治・大正期における府県管内図について—分県地図と治績報告書の狭間で—	単独	2005年10月	第100回人文地理学会歴史地理研究部会；日本国際地図学会；地図史フォーラム共催集会	明治期に作製された府県管内図を概観し、近世の国絵図や行幸啓時の治績報告との関係を考察した
6 戦時統制と都市鉄道経営—大阪市とその近郊を事例に—	単独	2005年11月	経営史学会第41回全国大会・自由論題報告	これまで研究の蓄積の少ない戦中期の都市鉄道経営の実態を明らかにし、その基本的問題について議論した
7 日本植民地における「樺太」	単独	2006年2月	北海道大学スラブ研究センター第2回シンポジウム：「日本とロシアの研究者の目から見るサハリン・樺太の歴史」	北大スラブ研究センター主催の日ロ共同シンポジウムでの1報告で、帝国日本全体における樺太の位置づけを「国境」と「植民地分類」を軸に考察した
(その他)				
3				
4				
5				